

第8回 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会（全体会）会議録

- 場 所 : 葛飾区男女平等推進センター 多目的ホール
○日 時 : 令和2年8月27日(木) 13:00~15:15
○出席者 : 中林委員長、河合副委員長、河原委員、谷川委員、近藤委員、太田委員、安田委員、橋本委員、武安委員、堀越(克)委員、古宮委員、浅野(幸)委員、根本委員、岩田委員、谷本委員、田中委員、大山委員、青木委員、谷茂岡委員、藤井委員、武者委員、市原委員、矢部委員、染谷委員、松村委員、菊入委員、川名委員、長委員、秋本委員、山口委員、千島委員、佐々木委員、矢作委員、倉持委員、大畑委員、高橋委員、千田委員、菊池委員、田口委員

(発言者の敬称略)

1 開会

2 議事

新基本構想(素案)の作成に向けた検討

- 資料1 新基本構想(素案に向けた検討案)
○資料2 新基本構想(中間のまとめ)からの変更点
○資料3 新基本構想の将来像について

委 員 長 新基本構想「第3章 本区の将来像」について意見はあるか。

委 員 「人情」という言葉は使い古されている言葉であり、この言葉自体、30年もつのか疑問である。AIで新しい言葉を検討しても良いと思う。

事 務 局 若い世代には人情という言葉は新鮮味があり、評価されている面もある。皆様のご意見を伺いながら慎重に考えていきたい。

委 員 長 コロナ禍でふれあいの大事さを、改めて考えさせられている。「人情」は、昔からの言葉ではあるが、コロナ禍以降の今こそ、アピールする意味合いがあると感じる。

委 員 人とのつながりについては将来像に位置付けるべきと思う。「人情」が「かがやく」という言葉があるのかが気になる。

委 員 「水」が「かがやく」、「緑」が「かがやく」、それから「人情」が「かがやく」という表現に違和感がある。「人情」なら「あふれる」などになるのではないか。

事 務 局 葛飾の魅力である「水」と「緑」、評価の高い「人情」を、みんなで磨き上げて輝かせていくという趣旨である。文法的にどうかというご意見も踏まえ再度考えたい。

委 員 長 「かがやく」は、「水」と「緑」と「人情」のそれぞれにかかっている。濁音が少ない方が響きは良いが、「水と緑と人情」と「かがやく」の間に「が」が抜けていると思う。

委 員 30年後は100%が戦後生まれ、戦争を知らない世代だけになる。科学的に進歩している中で、「人情」という言葉は通じなくなり、人情を将来像に掲げていては取り残されていくのではないか。寅さんだけのイメージは、変える必要があるのではないか。

- 委員 カスリーン台風の時に、「人情」がすごく印象に残った。教育の中で人情を伝えていく必要がある。受けの良い言葉ではないが、「人情」は助け合いの基本であり、人間の基本である。人情を加え、しっかりPRしてほしい。
- 委員 「人情」は言葉を換えれば思いやり。これは戦中だろうと、戦後だろうと、時代を問わずに変わらない、また人間にしかできない大事なことなので残して欲しい。
- 委員 将来像の案に素敵な印象をもった。引っ越してきて葛飾区は本当に人が優しく、面倒見が良いと感じている。「水と緑と人情」がそれぞれ輝いて「暮らしやすい」ということで、敢えて「人情」を使って他区と差別化し、人情でトップの区を目指すべきだと思う。
- 委員 人情には必ず義理が付いてくるため、違う方向性で伝わることを懸念する。思いやりの方が柔らかいし、義理が付いてこないのので、今後30年を考えた場合、良い言葉ではないか。
- 委員 新基本構想の「区民」は、「本区に関係するものを広く含む」としており、将来像についても「区民とつくる」となっている。区民と誰がつくるのか、説明を付けるなどの検討をお願いしたい。
- 委員 「人情」は他区との差別化という意味で、使わない手はないと思う。子どもたちは、思いやりや心のふれあいの意味で受け止めると思う。また、「かがやく」を「寄り添う」に言い換えるのも一案である。
- 事務局 前回の全体会では、「人情」という言葉を使うべきとのご意見があった。また、「心のふれあい」の要素を入れるべきという総意であったと認識している。言葉の選択は一旦、事務局で再検討となったが、区民モニターアンケートにおいて「人情味豊かなまち」という要素は、高く評価されていた。このことを踏まえ、「人情」という言葉を事務局再提案という形で記載した。引き続き、ご意見をいただきつつ検討していくが、検討の方向性としては人とのふれあいや、葛飾らしさをいかに表現していくかということに尽きるかと思う。また、「区民とつくる」は、行政がつくるだけ、区民が自分の生活をするだけではなく、共に自らの得意とすることに取り組みながら、「水と緑と人情かがやく暮らしやすいまち」を皆でつくり上げていこう、という趣旨で記載している。なお、協働の要素については、説明文の部分に記載している。
- 委員長 「人情」は若手の委員からも積極的に支持されており、これから大事にしなければいけないということ。葛飾らしい人の輪をつくっていくことや、アピールの面で「人情」は大事な言葉ということ。「人情」という言葉自体は古くて、義理とセットになってしまったが、「人情」を今後使っていくことに重要な意味があるというご意見があった。本日、ご意見を伺って「人情」も人によりイメージが違うということがわかった。将来像の説明文に「下町人情」とあるが、これからの高齢社会では、人の情、思いやり、助け合いが必要になるため、下町に限らず「人情」が大事になっていく。科学技術が進展し、人

と人が直接会わなくなる中で、人情が大事になるのは「下町」だけではないと思う。「下町人情」とすると独特のニュアンスで、独特の解釈がされてしまうこともあるため、「下町」を取った方が良いと考える。

今回、葛飾区に関わる人を全員「区民」として幅広く定義し、「区民とつくる」としているが、「区民」とするとイメージが矮小化するおそれがある。また、定義を読まなかった人に閉鎖的なキャッチフレーズと思われる可能性もあるため、「みんなでつくる」とするなど、表現を検討されたい。

区が策定する基本構想であるため、最終的には議会も含めて検討するが、皆さんからいただいた意見も踏まえ、本日の将来像の案をベースとして、今後検討を重ねていきたい。最終決定ではないが、現段階の将来像について、委員会として了承いただけるか。

各 委 員 （異議なし）

委 員 長 今後、最後の仕上げに向けて進めていきたい。それでは、「第1章 基本構想の基本的な考え方」について、ご質問・ご意見を承りたい。

委 員 まず進行について、異議を申し上げたい。将来像に1時間かけているが、残り1時間で基本構想の内容を検討できるのか。

委 員 長 将来像を固めないと全体の方向性が揺れ動いてしまうため、将来像にある程度時間をかけることを想定していた。

委 員 そういうことは最初に言っていた方が良い。時間配分に疑問を持った。

将来人口の項目に、「外国人人口については、約4.1万人であると推計します」とある。区の総人口の約10%に近いと数字だと思うが、敢えてパーセンテージは載せなかったのか。また、第5章については今まで話し合いがあったのか。

事 務 局 外国人人口の構成比の記載について検討する。また、第5章は、これまでの策定委員会でも提示している。

副 委 員 長 第1章では「葛飾区の地域に関わるもの全てが」、他は「全ての人々が」となっており、「もの」と「人」が混在している。

事 務 局 人に限らず団体も含めて平仮名の「もの」で表現するのは法律的な表現であるが、誤解もあると思うので改めて整理する。

委 員 第5章のタイトルが、第1章から第4章に比べて、内容の表現としてわかりづらい。区はどのような姿勢で実践していく、というニュアンスのタイトルにすれば伝わりやすいと思う。将来像に「区民とつくる」とあるが、第5章では区民の主体性が鈍って見える。

委 員 第2章の理念は、SDGsやESGを「持続的な発展」として捉えていると思うが、今後普及することが見込まれるため、英字をそのまま記載しても良いのではないか。

副 委 員 長 SDGsという表現については、個人的な見解だが、果たしてどれだけでも言葉なのかと

いう懸念もある。葛飾区の表現としては、「持続的な発展」にしておいた方が良いと思う。

事務局 言葉が陳腐化してしまう可能性や、SDGsが2030年までの目標であることも踏まえ、SDGsの目指すべき理念や考え方を葛飾区の表現として表せるように記述している。

委員 今後、外国人人口比率が上がり、総人口自体は減少する。「持続的な発展」の「人口総数や年齢構成のバランスを維持しながら」というのは、外国人の人口比率も踏まえて記載しているのか。

事務局 区として様々な策を講じながら人口のバランスを維持し、末永くまちが発展していけるよう、理念に「持続的な発展」を位置付けた。人口構成が変わっていく中であっても、様々な取組で、人口総数や年齢構成を維持していけるよう取り組み、持続的な発展を目指していきたいという趣旨で記載している。

委員 バランスを維持する、とするのは無理がある。バランスを勘案しながら等の表現が良いのではないか。人口構成はこれからの大きな政策課題である。政策を検討する上で、人口構成の変化によりどのような問題が起きるかを捉えていく必要がある。

事務局 末永くまちが発展していけるようにするためには、人口総数や年齢構成などのバランスを取っていくことが必要という趣旨で記載している。事務局としては葛飾区の末永い発展を理念として掲げ、そのための方策を第4章で述べ、具体策については基本計画以下で組み立てていきたい。決して区の状態を変えないという頑なな趣旨ではなく、柔軟に対応し、持続的な発展を目指していくことを考えている。

委員 国の政策など色々なことを無視した表現をしているのではないか。人口バランスが変わらないという前提は、非論理的で科学的ではない。変わったとしても良くしていこうという理念や計画ではないのか。

委員長 ご指摘のように「維持」が誤解される可能性があるため「勘案」、「留意」、「配慮」といった表現を検討しつつ、どのような人口構成を目指し、どのように外国人との共生を展開するか、政策的に考える必要がある。「人口総数や年齢構成のバランスを維持」という表現には、「なるべく維持する」、「これ以上崩さないようにしていきたい」という想いが込められていると思うが、的確に表現できるように修正してほしい。

それでは、「第4章 基本的な方向性」について、ご質問・ご意見を承りたい。

委員 4ページの2番目の項目に「自立した消費者として生活できる環境を整備」とある。消費者といえばオレオレ詐欺などのイメージが強いが、前後の項目には生命、身体に関する危険について述べられているため、「消費者」の概念が狭く感じられる。例えば、「自立した個人として生活できる」など、「消費者」以外の表現の方が良いのではないか。

4番目の項目に「医療・食品の安全体制」とあるが、唐突で違和感がある。また、医療・食品の安全体制には、医療や介護との連携が欠かせない。しかし、第4章の序文には「区

民と区、国、関係する行政機関」と述べられており医師会など関係する団体の記載がない。

5 ページの 2 番目に「必要な時に必要な医療や介護を受けられる」とあるが、前段が全て医療の表現となっており、介護に関する表現がない。

事務局 まず、「消費者」の項目については元々、地域の安全に関する政策から導かれた方向性と、消費生活の政策から導かれた方向性を合わせて「犯罪のない、安全なまちをつくります」と結んだ。「消費者」という表現が適切かどうかを含めて再度、庁内で検討する。

次に、「医療・食品の安全体制」の項目については、食品の安全体制を考える際に、医療は密接不可分とのご意見等も踏まえ再構成したが、改めて検討する。また、序文に記載されていない医師会などの団体については、「区民」の表現に含まれている。

最後に、介護については 3 番目の項目で言及している。医療と介護を併せて受けられるように「医療や介護」と記載しているが、ご指摘を踏まえ庁内で再度検討する。

委員 医療と食品は別である。食品の安全体制は、食品衛生法等に基づく官公庁の行政行為によるものである。医療、特に民間の医療とどのような接点があるのか。権力行政とそうではないものが混在しているため再考願いたい。

副委員長 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、地域の公衆衛生を区がどのように考えるのかということが問われている。基本的な方向性に、新型コロナウイルス感染症について書き加えることが必要と思う。

事務局 4 ページ目の 4 番目の項目については前回、「(2) いつまでもいきいきと健やかに暮らせる安心なまち」の中に掲載したが、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、危機管理で感染拡大予防を図っていくことも含め、衛生的なまちをつくっていくという視点から「(1) いつまでも安全に暮らし続けられるまち」に位置付けた。医療の安全体制等を含めて様々なご意見をいただいたため、再度検討していきたい。

委員長 区の進める医療の安全は、医療機関がサービスを提供することを踏まえての取組であるため、言葉遣いに誤解がないようにされたい。

また、基本構想に基づいてつくる基本計画の政策全体に、基本的な方向性の各項目が影響してくる。基本計画でどういう施策を展開するかという要旨が、基本的な方向性の文章なので、本来は基本計画と基本構想を照合する必要がある。

それでは、基本的な方向性の「2 子どもが元気に育ち、誰もが生涯にわたって成長し活躍できるまち」について、ご質問・ご意見を承りたい。

委員 「文化・芸術」という言葉が一つもない。子どもたちには文化・芸術は不要なのかと思う。また、文化・芸術のための環境づくりが必要だと思う。新型コロナウイルス感染症対策の中、コーラスや楽器関係は練習ができず、大人数での演奏もできない。文化・芸術のための環境をつくっていかないと、永遠になくなってしまうため、検討してほしい。

- 事務局 現基本構想は基本目標ごとに政策を分けて編纂しているが、新基本構想は一つの政策が複数の基本的な方向性を横断して展開できる形に整理している。基本的な方向性を受けて基本計画の政策を推進するに当たり、文化に関する区の目標を実現するためには、文化政策だけではなく、子どもの頃からの取組が必要不可欠である。このため、色々な政策が複合的に貢献しながら、一つ一つの基本的な方向性を実現するようにつくりたいと考えている。現時点では、文化・芸術という言葉が教育の項目に加えると、他の項目にも加えることになるため、基本構想の各項目で書き分けているが、様々な基本的な方向性を実現できるよう、基本計画の政策を実行していく。
- 委員 「4 葛飾らしい文化や産業が輝く、笑顔とにぎわいあふれるまち」にも、新型コロナウイルス感染症に関する取組を含めて、文章として加えてほしい。「文化・芸術」は11ページ最後の2～3行だけで、スポーツと比べても記載が少ない。もう一度、検討してほしい。
- 委員長 子どもを育てる上で大事なことであるため、7ページの2番目の項目「グローバル社会を生き抜く国際感覚、深い学びの中で培われる資質・能力」の後に、「芸術・文化に触れながら」を入れると良いと思う。
- また、7ページの1番目の項目の「知・徳・体」という言葉は、それだけでは把握し切れないため、表現を工夫できればと思う。
- 副委員長 約3年かけて文化的な生活に関する全国調査を行っているが、世帯の階層や年齢で非常に差がある。学校教育だけでなく、家庭や地域で文化をどうつくっていくのかということが問われている。委員長からの指摘があったように記載願いたい。
- 委員長 それでは、「3 人や自然にやさしく、誰もが快適に暮らせる美しいまち」について、ご質問・ご意見を承りたい。
- 委員 9ページの1番目の項目は「豊かな水と緑や生態系に親しみ、楽しめるまちをつくります」ではなく、「楽しく学べるまちをつくります」にしてほしい。楽しみながら学べるところをつくっていく必要がある。
- 委員 資料2の8ページの備考欄に「多様性と多文化共生の視点を統合して、記載内容を整理」とある。多文化共生、特に外国人のことを謳うのであれば、統合せずに、色々な国の文化や習慣の違いを理解し合うという項目を残した方が良い。
- 委員 8ページ目の3番目の項目「誰もが自由に移動し、活動し、参画し、自己選択・自己決定することができる、ユニバーサルデザインに基づいたまち」とあるが、自己選択・自己決定に敢えて「自己」を付けた理由は何か。ユニバーサルデザインは、勝手に自分で決めなさいという話ではない。
- 事務局 まず、「楽しめるまち」という記載について、「学べる」に限定してよいかどうかも含めて庁内調整する。

次に、多文化共生と多様性は、切り離せない概念である。共に支え合いながら暮らしていくことが必要であり、多様性が尊重されたまちをつくっていくという趣旨で統合している。最後に、ユニバーサルデザインについては、本区のユニバーサルデザインの指針等の表現を勘案して記載している。現在、自らが自己選択・自己決定をして、自分らしく生きていくことができることも含めて指針に掲げているが、再度検証したい。

委員 葛飾区は緑が豊かなように見えるが、緑化面積は23区で下の方である。特に最近、農地が減っている。農地を維持する対策はしているのか。区が優先的に農地を取得し、公園にするといった計画はあるのか。

事務局 都市農地については、10ページにも「身近に広がる都市農地に親しみながら、生活を豊かに楽しめるまちをつくります」とあり、都市農地を保全しながらまちをつくっていくことを考えている。具体的な取組は、基本計画の中で示していきたい。

委員長 農地は、農業後継者がいないと守れないため、どのように農業後継者をつくっていくかという課題がある。また、ハウス農業が発展しており、ビニールハウス等は外からは緑に見えない。この点も含め、広い意味でどのように緑を守っていくかというのは、これからの課題であり、都市計画審議会でも議論しているところである。

それでは、「4 葛飾らしい文化や産業が輝く、笑顔とにぎわいあふれるまち」について、ご質問・ご意見を承りたい。

委員 10ページの5番目の項目に「多くの人を訪れ、地域産業全体がにぎわう観光のまちをつくります。」とあるが、観光を発展させるには通過型ではなく、滞在型でないと意味がないため、「滞在できる」といった文言を加えてほしい。宿泊施設をつくるための積極的な方針がほしい。

事務局 宿泊施設については、区としても研究を進めているところである。ご指摘の点を踏まえて、検討する。

委員長 学会、コンベンション等も観光である。葛飾区は新しい観光資源を開発するという発想を持つ必要がある。今、ご指摘があった項目は、従来の観光イメージから脱却できていない。まず、新しい観光として、葛飾区を拠点として周辺を観光するような発想も含めて展開できると良い。

委員 12ページに「5 先進技術を最大限に活用し、洗練された質の高い生活を送れるまち」とあるが、「最大限」という表現は、個人情報に侵害することにもつながるため、「最適」に置き換えてはどうか。

また、4番目の項目「先進技術の発展に伴い発生する様々なリスクに対し、高いセキュリティ意識を持つとともに、適切な技術的対策を講ずる」とあるが、「適切な」という文言を「プライバシーにも配慮して」や「個人情報にも配慮して」等の表現にすると良いと思う。

- 委員長 ご意見として承る。事務局で検討願いたい。
- 委員 「先端技術を活用」とあるが、東京理科大学があるので区や、技術力のある区内中小企業との産学連携等についての文言があると良い。
- 副委員長 12 ページ上段の説明文の冒頭に「ICTの進化」という表現がある。あらゆる人にとって分かりやすいように、括弧付きで説明を付ける、または別の表現にするなど検討願いたい。
- 委員長 今後、否応なくリモートワーク等の高度情報技術を使った新しい働き方が広がっていく。新しい働き方に対応した、働きやすく住みやすいまちという観点での、地域の情報環境の整備が重要である。また、通信環境によっては途中でリモートが切れてしまうということもあるため、誰もが先進技術を活用できるようまちづくりを進めていく必要もあると思う。さらに、情報弱者をつくらないよう取組を進めていく必要があるため、検討願いたい。
- 事務局 情報弱者をつくらないためにも、誰もが先進技術を活用できる環境をつくっていく。また、誰もが先進技術の恩恵を受けられるよう、様々なご指摘を踏まえ検討していく。
- 委員 14 ページの「自治権の拡充」に、「都は大都市行政の一体性及び統一性の確保を名目に、未だ区が担うべき事務の一部を担っています」とある。水元公園の運営と企画は、東京都が行っているのか。
- 事務局 水元公園は都の管理だが、防災を含めて様々な取組に水元公園を活用しており、本区と協力体制を築きながら運営している。基本構想を様々な主体で実現していくため、関係する自治体にもご協力いただき、また、自治権の拡充に向けて働きかけていくことを掲げている。ご指摘の点を含め、区民に一番身近な自治体としてよりサービスを向上し、色々な施策を展開していけるよう働きかけていきたい。
- 委員 13 ページの「効果的・効率的な行財政運営の推進」について、自分は行政評価委員を務めたが、評価対象となるのは些末な事業であり、評価が必要と思う事業がない。区長も行政改革や行政評価、事業の指標設定に取り組んでいるが、我々から見たら不要と思う事業も多い一方、推進してほしい事業も多い。改善に向けて必要なことができない、長年実施しているため変えられないといった課題はないか。また、「執行体制の確立と職員の能力向上」について、区長が熱心に取り組んでいるのは承知しているが、女性職員の幹部登用を進めてはどうか。
- 事務局 まず、行財政運営については、行政評価委員会等で区民のご意見をいただいて、事業に反映させていくという形で、事業のスクラップ・アンド・ビルドに取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、色々な面で社会の急速な変化が起きていると認識しているが、そうした変化も踏まえつつ、どのような事業のあり方がより効果的・効率的か検証しながら行財政運営に取り組みたいと考えている。また、区では現在も女性の活躍を掲げており、職員配置についても、適材適所で対応をしていると考えている。

委員 この場での回答は求めないが、反対意見を申し上げる。観光についてハコモノの話があったが、それは一昔前のマーケティングである。アーティストにまちづくりを協力してもらうことが、子どもや若者のまちづくりへの参画や空き店舗・空き家問題の解決につながる。そのようなことを踏まえるのが今の流れである。

委員長 第5章に、進捗管理やチェック機構について追記すると良いと思う。

事務局 今、ご指摘のあった点は追記していきたい。

3 その他

事務局 今回は 11 月上旬に全体会と分科会をそれぞれ開催する予定である。新型コロナウイルスの感染拡大状況等を踏まえ、後日あらためて開催日時と会場をお知らせする。

4 閉会

以上